

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2670700364 |
| 法人名 | 株式会社アールアイエス |
| 事業所名 | 洛和グループホーム太秦 |
| 所在地 | 〒616-8155 京都市右京区太秦袴田9-1 (電話) 075-873-2114 |

| | | | |
|-------|------------------------------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月18日 | 評価確定日 | 平成20年9月3日 |

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|-------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 3 月 31 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 27 人 | 常勤 15 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 | 22.4 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|------------|-------|-------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造り | | |
| | 3 階建ての | 1 階 ~ | 3 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|--------------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 65,000~68,000 円 | その他の経費(月額) | 28,000 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(200,000 円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1,670円 |

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 26 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 8 名 | | |
| 要介護3 | 10 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 87 歳 | 最低 | 75 歳 | 最高 | 105 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------|
| 協力医療機関名 | 洛和丸太町病院 |
|---------|---------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムのグループホームです。閑静な住宅地で、遠くには山が見渡せ、周りに田畑が広がり四季の移り変わりを感じる事ができる環境にあります。ホーム内は季節の花が絶えることなく、生活歴を活かした支援を重視することで、入居者は、今までと同じように得意なことや趣味を楽しみながら、役割を持って生活されています。「笑顔と居心地の良いケアを求めて」という理念は職員の思いを集約して作られ、理念の実践に向けて日々取り組まれた結果、ホームの自慢は利用者の笑顔となっています。職員は、入居者一人ひとりとかかわりを深く持つことで、症状が和らぐことを理解し、個別でのケアを大切にされています。地域との関係も良好で、地域向けの便りを発行してホームの情報を発信したり、認知症についての理解が得られるよう取り組まれています。ホーム主催の納涼祭は地域行事の一つとして認識され、毎年多くの方が参加されています。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価で確認した、ホーム独自の理念を作る事と、災害に関して地域の協力を得られるよう働きかける事は、職員間で話し合い、改善できるように取り組まれました。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価は、全員に回覧し意見を出し合い取り組みました。日常を振り返る良い機会ととらえています。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 家族、利用者、入居者民生委員、老人会代表、近隣住民、地域包括支援センター職員、ホーム職員が集まり2ヶ月に一度、運営推進会議を開催しています。ホーム側からは取り組みや行事報告をし、地域からは様々な意見や情報、アドバイスを頂いています。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | ホームの玄関には意見箱を設置しています。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記しています。家族の訪問時には、積極的に話をし意見や要望を聞いています。また、年に2回、法人の取り組みとして家族アンケートを実施し、結果を分析してケアに活かしています。 |
| 重点項目⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 町会に加入し地域清掃に協力しています。七夕祭りや学校行事にも参加しています。老人会との交流も盛んで、職員の特技を活かして余興を披露したことがきっかけになり、ホーム主催の納涼祭にはお手伝いに来て下さいました。地域向けのホーム便りも発行し、ホームの機能や認知症についての説明をしたり、情報を発信しています。地域とは良好な関係が築けています。 |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人としての理念を玄関に掲示している。ホーム独自としては「笑顔と居心地の良いケアを求めて」という理念を職員全員で、意見を出し合って作られている。地域とのかかわりや役割については明示されていない。 | ○ | 地域の中での生活していくということを念頭に置いて、役割やかかわり方を明確な文書にされることが望まれる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実践に向けてのケアを提供している。笑顔が多く見られるようになることを第一に、落ち着ける場所の提供を考えている。また、理念を介護計画にも反映させている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町会に参加し地域清掃に協力している。七夕祭りや学校行事にも参加している。老人会との交流も盛んで、職員の特技を活かして余興を披露したことがきっかけになり、ホーム主催の納涼祭にはお手伝いに来て下さった。地域向けのホーム便りも発行し、ホームの機能や認知症についての説明をしたり、情報を発信するなど地域とは良好な関係が築けている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価で話し合ったことを踏まえて、職員間で話し合い改善された。今回の自己評価も全員に回覧し意見を話し合い取り組まれた。日常を振り返る良い機会ととらえている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族、利用者、民生委員、老人会代表、近隣住民、地域包括支援センター職員、ホーム職員が集まり二ヶ月に一度開催している。ホーム側からは取り組みや行事報告をし、地域からは様々な意見、情報やアドバイスを頂いている。 | | |

洛和グループホーム太秦

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 法人としては密な連携があるが、ホームとしては右京区施設連絡会の立ち上げから参加して役員を務めている。連絡会では情報を得たり、意見交換したりしている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封している。チェックシートも同封し、一ヶ月のバイタルチェックや、食事摂取量、入浴状況等をお知らせしている。職員の異動についても報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホームの玄関には意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族の訪問時には、話をして意見や要望を聞いている。また、年に2回法人の取り組みとして家族アンケートを実施しケアに活かしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの関係作りに配慮し、継続したケアが提供出来るようにと考えている。法人内の移動はやむを得ないが、前任からの情報は伝達もれのないようにし、コミュニケーションをとりながら慣れて頂くように配慮している。管理者が職員の話の聞いたり、職員の特技や趣味を載せたプロフィールを便りにして配布し、人となりを理解することで職員同士の関係は良好である。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ホームでは、外部、内部とも多くの研修の機会を利用し、順次参加できるようになっている。受講した研修は、ホーム内での勉強会として伝達研修をし、報告書を資料と共に回覧して共有を図っている。学ぶ機会は多く、職員のステップアップにつながっている。年間の研修計画も充実し、職員は知識を得るだけでなく、日々の振り返りの機会と捉え積極的に受講している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会に参加している。研修や親睦会もあり、意見交換をしたり情報をもらったりしている。法人の事業所同士で交換研修をしたり、行事に参加している。今後は他のサービス事業所との交換研修を予定している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族と密に連絡をし、入居者の生活歴を詳しく聞いてからサービスを開始している。把握した内容で話をし、馴染んで頂く様に配慮している。入居前には見学に来てもらったり、訪問したりして、その方の雰囲気をつかんでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | ホームが居心地のいい居場所であるようにと支援している。人生の先輩として尊敬することはもちろんの事、様々な場面で風習や仕方を教えてもらいながら、共に笑ったり喜んだりしている。時には職員の悩みを聞いて、適切なアドバイスを頂くこともある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者一人ひとりの気持ちに添って、ケアすることを心がけている。常に希望を聞いて行動しているが、意思確認が困難な方には表情や行動で把握している。職員間では情報を持ち寄り、カンファレンスで話し合い共有を図っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | センター方式を使用してアセスメントし、長期目標、短期目標を記載した計画をたてている。計画作成前には、必ず家族にシートを送り、意見を記入してもらっている。また、利用者の思いも取り入れている。センター方式から考案した独自の24時間記録シートを用いて、計画と日常のケアにずれがないかを把握している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 通常は、3ヶ月に一度の見直しで、状態の変化にはすぐに対応している。カンファレンスを開催し、職員で話し合い計画の評価を行い、再アセスメントにつなげている。カンファレンスに出席できない職員には前もって意見を聞いて、計画に反映させている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院介助や美容室の送迎を行っている。職員との個別外出も頻繁にあり、買い物へ行ったり、喫茶店でお茶を飲んだりしている。また、入居者の希望で歌舞伎を観劇する予定も立てられている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からの主治医に継続して診て頂いている方や提携病院が主治医の方もいる。往診が月に2回あり、緊急時には24時間連絡体制があり、すぐの対応も可能である。看護師との連携もあり、週に1回訪問してくれている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 法人としてのターミナル指針については家族の同意を得ており、意向についてもあらかじめ把握している。その時になれば、家族や、主治医、看護師と相談の上ホームで緩和ケアをするかどうかもう一度話し合う体制を整えている。事例はないが、受け入れが出来る状態であれば、ホームで最期を看取りたいと考えている。看取り研修も受講している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーには十分に配慮し、入居者の誇りを損なうことのないように心がけている。言葉がけにも注意し、不適切な対応がみられた時は、職員同士で注意合っている。個人情報保護の観点から、記録物は扉付きの棚に保管している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 常に希望を聞き、意思確認をしながらケアしている。例えば、就寝時間や、起床時間は自由である。買い物や散歩も、行きたいと思われた時に行けるように支援している。 | | |

洛和グループホーム太秦

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | スーパーの広告や、冷蔵庫にある食材を見て献立を考えている。入居者から調理方法や味付けを教わりながら一緒に作っている。得意料理を振舞って下さる方もいる。食事と同じ物を食べながら楽しい時間を過ごしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 午前から夕食後まで、希望の時間や体調を考慮しゆっくりと入浴してもらっている。お風呂の好きな方には、毎日でも可能である。入浴できない日が続くと清潔保持の為、足浴や清拭を行っている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 把握している生活歴を活かしたケアをしたいと考えている。一人ひとりが役割を持ち、ホームでの生活が、楽しく、張り合いになるように支援している。家事や趣味等、得意なことや好きなことを継続できるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 出掛けたいと思われた時には、外へ行けるような支援をしている。散歩や買い物での外出は毎日である。職員と個別での外出にも積極的に対応し、より希望に添えるよう支援している。裏庭での野菜作りや、外気浴も気分転換に役立っている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。玄関先のアプローチや駐車場には自由に出入りされている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回、消防との協力で避難訓練を行い、近隣住民の参加も得られた。また、2ヶ月ごとにホームだけで様々な場面を想定し訓練している。地域の消防訓練にも利用者と共に参加し、避難経路の確認ができ、地域の方々や消防団とのつながりや協力関係も構築されている。 | | |

洛和グループホーム太秦

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量は毎食記録している。水分摂取量は必要な方のみ排便の状態を見ながら調整しているが、他の方にも適宜、飲水を勧めている。栄養バランスについては、法人の栄養士に献立をチェックしてもらい、アドバイスをもらっている。ホームでは、おやつを含め毎食検食をして、味、量、バランスをチェックし所見に残している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビング等の共有部分には、季節の花を欠かすことなく、カーテンや衝立で間仕切りして、お気に入りの空間を作っている。廊下にはベンチや椅子を置いて居場所を確保し、そこで金魚を觀賞しながらお話されたり、行事の際の写真を見ながら思い出話をされたりと、入居者は思い思いに過ごされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と協力し、今まで生活されていた家と同じような居室作りを支援している。大切な仏壇や思い出の品、使い慣れた家具等を持ち込まれ、過ごしやすい居室となっている。 | | |